

令和2年5月15日
研究主任

令和2年度校内研究計画

1 研究主題

「わかる」「できる」を実感する算数科授業の創造
～数学的活動の効果的な活用を通して～

テーマ決定の経緯

確かな学力の獲得を図るためには、児童が学習活動の中で課題やその解決方法がわかり、実際に課題解決ができることが不可欠である。課題を自力で解決してこそ学力が身についたと言える。そのために、学習活動の様々な場面で、児童が「わかる」「できる」を積み重ねていくことが大切である。わかったことを実際に自分でやってみてできたという経験は自信になり、算数に対する意識も高まる。また、身についたことを次の課題に生かして解決することができる。その活動が数学的活動であり、指導過程に合わせ、効果的に活用していくことが求められる。

そこで、本校では、数学的活動を効果的に活用することを通して、児童が意欲的に学習に参加し、「わかる」「できる」を実感するための授業を創造するために本研究主題を設定した。

2 テーマについての基本的な考え方

「わかるとは」

- ・問題の意味がわかる。
- ・学習の課題がわかる。
- ・解き方がわかる。
- ・計算の仕方がわかる。
- ・先生や友達の説明がわかる。

「できるとは」

- ・意欲をもって学習に参加できる。
- ・具体物を操作できる。
- ・作図ができる。
- ・計算ができる。
- ・自分の力で問題を解くことができる。
- ・自分の考えを説明できる。
- ・学習したことを活用できる。

3 教科領域

算数

4 ・学校教育目標

知性と徳性を備えた健康で人間性豊かな児童の育成
～凡事徹底，子どもたちへの寄り添うことを通して～

・目指す児童像

よく考え，自ら進んで学ぶ子 〈かしこく〉 知
思いやりがあり，よくはたらく子 〈正しく〉 徳
進んで体をきたえ，最後までやりぬく子 〈元気よく〉 体

5 研究のねらい

効果的な数学的活動の活用を通して，児童に学ぶ楽しさを味合わせながら
「わかる」「できる」を実感する授業を創造する方策を明らかにする。

6 めざす子ども像

○課題がわかり，解決できる子

○数量に関する基礎的・基本的な知識・技能が身につけている子

7 研究の視点

(1) 児童が自分で課題に取り組んだり，解決の方法を考えたりするために，
指導過程に合わせ，効果的な算数活動の活用を図り，「わかる」「できる」
を実感できる授業づくりをする。

(2) 算数の基礎的・基本的な知識・技能の習得に計算チャレンジなどの時間
を使い，定着を図る。

8 研究の内容・方法

- ・「めざす子ども像」に基づく実態調査を行い，本校児童の実態を捉える。
- ・研究の視点に基づく「わかる」「できる」を実感するための効果的な算数活動の方法を検討する。
- ・授業研究を行い，効果的な算数的活動の活用の方法について検証する。